

令和2年度上半期のエソール広島の活動状況の検証について

〔 令和2年11月19日
人権男女共同参画課 〕

エソール広島の令和2年度上半期の活動状況について取りまとめを行い、その内容について検証する。

1 エソール広島の利用状況

(1) 利用者数

利用者数は、令和2年4月1日～9月末で5,548人となった。利用内訳は下表のとおりであるが、対前年同期比で、利用者数は62.6%に留まっている。これは、新型コロナウイルス感染拡大防止のための利用自粛の影響によるものである。

区分		平成28年度	令和元年度実績		令和2年4～9月実績 (対前年同期比)
			4～9月		
利用者数		10,563人	20,322人 (100.0%)	8,864人 (100.0%)	5,548人 (62.6%)
内訳	研修室・交流スペース利用	—	15,719人 (77.3%)	6,593人 (74.4%)	4,251人 (64.5%)
	図書の貸出しや情報収集等での利用 (フリースペース利用)	—	4,603人 (22.7%)	2,271人 (25.6%)	1,297人 (57.1%)
(参考)外部施設で開催した財団主催 又は共催の講座等の参加者数		—	4,519人	2,094人	481人 (23.0%)

※研修室・交流スペース利用者数については、オンライン参加(1,521人)を含む

(2) 研修室及び交流スペースの稼働率

① 全体の稼働率

研修等の目的のため、研修室または交流スペースが利用された日は半年間で182日であり、稼働率は57.1%となっている。

開館日数 (A)	研修等の目的で利用された日数 (B)	稼働率 (B/A)
182日	104日	57.1%
(135日)	(98日)	(72.6%)

※下段()内は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため利用自粛要請を行った4月1日から5月17日までの間(47日間)を除いた数値

※昨年同期(R1.4～9月)の稼働率は、65.4%

② 研修室、交流スペース別の稼働率

「研修室」の稼働率（研修室2室の平均）は、昼間の利用については平日 30.2%、土日 32.9%であるが、夜間の利用については平日 7.2%、土日 6.6%と低くなっており、全体で平均すると 23.0%にとどまっている。

また、簡易な仕切りで区切られている「交流スペース」の稼働率は、昼間の利用については平日 9.8%、土日 9.9%、夜間の利用については平日 3.6%、土日 0.0%となっており、研修室より利用が少なくなっている。

それらは、利用人数単位の稼働率でも、同様の傾向にある。

なお、研修室の利用状況をみると、研修会や講演会などの利用のほか、女性団体の役員会や打ち合わせ等の少人数の利用も含まれており、研修室1室当りの利用人数の平均は 4.6 人/回となっている。

【研修室単位の稼働率】

区分	昼間						夜間		合計	前年同期
	平日			土日			平日	土日		
	午前	午後	計	午前	午後	計				
研修室	30.4%	29.9%	30.2%	30.3%	35.5%	32.9%	7.2%	6.6%	23.0%	26.3%
交流S	9.8%	9.8%	9.8%	11.8%	7.9%	9.9%	3.6%	0.0%	7.4%	5.2%

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため利用自粛要請を行った期間（4月1日から5月17日までの間（47日間））を除いて算出した数値（次の表において同じ）

【利用人数単位の稼働率】

区分	昼間						夜間		合計	前年同期
	平日			土日			平日	土日		
	午前	午後	計	午前	午後	計				
研修室	17.7%	23.1%	20.4%	16.0%	19.4%	17.7%	8.4%	4.9%	15.6%	18.7%
交流S	13.4%	14.2%	13.8%	33.9%	7.1%	11.3%	3.6%	0.0%	11.3%	3.1%

※利用人数単位の稼働率の算定に当たっては、利用実態を考慮して研修室1室当り30人、交流スペース1室当り10人を標準値として算定している。

(3) 研修室及び交流スペースの利用状況の分析

① 団体区分別・利用形態別の利用人数

団体区分別でみると、女性団体（構成員の過半数が女性で男女共同参画や女性活躍に資する活動を行っている団体をいう。以下同じ。）の利用が 21.2%，企業・NPO が 42.7%，行政が 22.5%となっている。

利用形態別でみると、全体では講座・研修での利用が最も多く 46.2%となっている。

また、これを団体区分別にみると、女性団体は会議・打合せの区分で 46.6%と最も多く利用されているが、企業・NPOは講座・研修での利用が約6割となっている。

区 分	利用人数 (割合)	利用形態		
		講座・研修	交流会	会議・打合せ
女性団体	902 人 [21.2%] (100.0%)	330 人 (36.6%)	152 人 (16.9%)	420 人 (46.5%)
企業・NPO等	1,814 人 [42.7%] (100.0%)	1,134 人 (62.5%)	56 人 (3.1%)	624 人 (34.4%)
行政	958 人 [22.5%] (100.0%)	55 人 (5.7%)	772 人 (80.6%)	131 人 (13.7%)
男女共同参画財団 (主催事業)	577 人 [13.6%] (100.0%)	447 人 (77.5%)	58 人 (10.0%)	72 人 (12.5%)
合 計	4,251 人 [100.0%] (100.0%)	1,966 人 (46.2%)	1,038 人 (24.4%)	1,247 人 (29.3%)

② 利用回数区分別の利用状況

3回以上利用している団体は 21 団体と全体の 32.3%であり、これを利用人数で見れば 2,799 人と全体利用人数（4,251 人）の約3分の2となっている。また、利用実態としては、子育て支援や職場復帰のための連続講座の開催などで利用している団体がみられる。

(単位：団体)

区 分	団体数計	団体区分		
		女性団体	企業・NPO等	行政
10回以上	2	1	1	0
5～9回	12	5	6	1
3～4回	7	4	2	1
3回以上計	21	10	9	2
全利用団体数	65	29	29	7
3回以上の比率	32.3%	34.5%	31.0%	28.6%

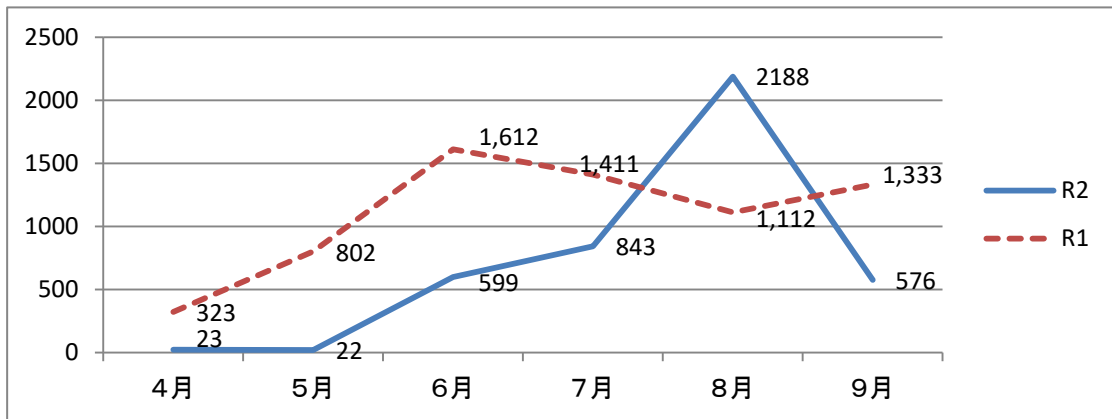
区 分	利用人数 (割合)	利用形態		
		講座・研修	交流会	会議・打合せ
3回以上利用している団体の利用人数	2,799 人	1,066 人	906 人	827 人

③ 月別の利用状況

新型コロナウイルス感染拡大防止のための利用自粛の影響により、4～5月の利用者数は、22～23名と非常に低い利用状況に陥った。その後、新規利用受付開始や利用定数を半分として利用再開したことから、6～9月は、利用者数、利用件数ともに持ち直しつつある。

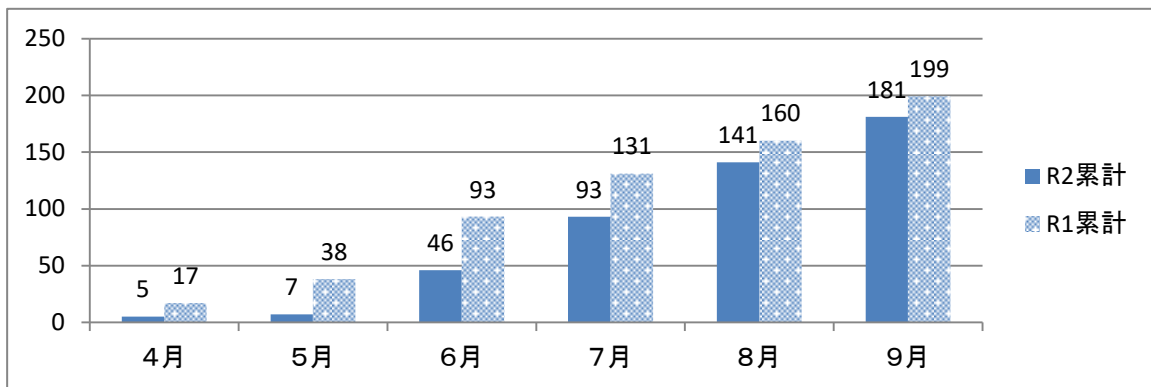
○ 利用者数

(単位：人)



○ 利用件数 (累計)

(単位：件)



④ 平日・土日別の利用状況

平日の昼間の利用は2,631人(61.9%)となっており、利用形態としては中国・四国地区の研修会などの「講座・研修」が、団体区分では「企業・NPO等」の利用割合が最も高い。

また、平成31年4月29日から開館時間の拡大を行った平日夜間の利用は537人(12.6%)となっており、利用形態としては、オンライン対話型イベントなどの「交流会」が、団体区分別では「企業・NPO等」の利用割合が高い。

次に、土日の昼間の利用は971人(22.9%)となっており、利用形態としては、オンラインでの平和教育のイベントやキャリアコンサルタント等の資格取得を目指す研修会などの「講座・研修」が、団体区分別では「女性団体」と「企業・NPO」の利用の割合が高い。

一方、土日の夜間の利用は112人(2.6%)とほとんど利用がない状況であった。

【利用形態別の利用状況】

区 分		利用人数 (割合)	利用形態		
			講座・研修	交流会	会議・打合せ
平日	昼間	2,631人 (61.9%)	1,252人 (29.5%)	732人 (17.2%)	647人 (15.2%)
	夜間	537人 (12.6%)	172人 (4.0%)	214人 (5.0%)	151人 (3.6%)
土日	昼間	971人 (22.9%)	505人 (11.9%)	92人 (2.2%)	374人 (8.8%)
	夜間	112人 (2.6%)	37人 (0.9%)	0人 (0.0%)	75人 (1.7%)
合 計		4,251人 (100.0%)	1,966人 (46.3%)	1,038人 (24.4%)	1,247人 (29.3%)

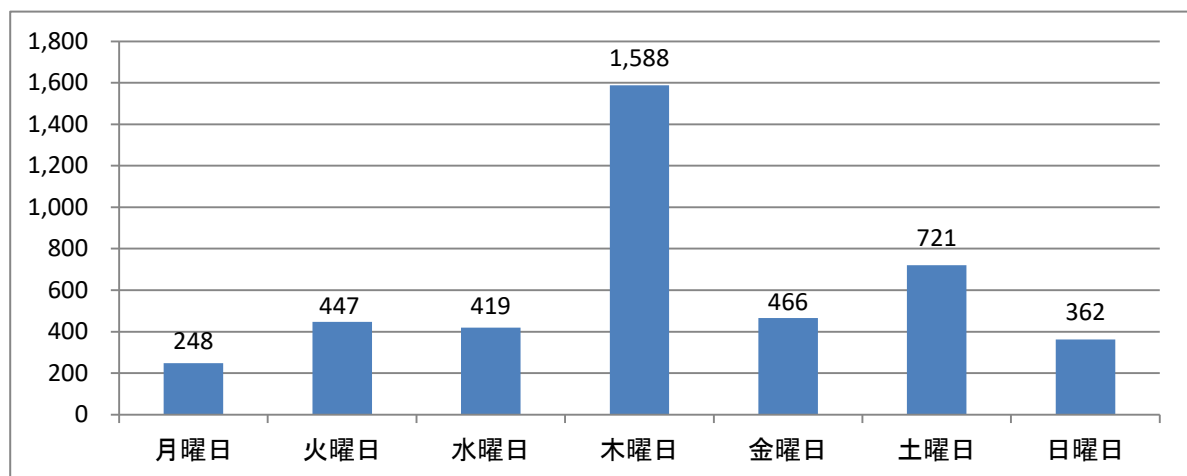
【団体区分別の利用状況】

区 分		利用人数 (割合)	団体区分			
			女性団体	企業・NPO等	行政	男女共同参画 財団(主催事業)
平日	昼間	2,631人 (61.9%)	529人 (12.4%)	1,162人 (27.3%)	724人 (17.1%)	216人 (5.1%)
	夜間	537人 (12.6%)	28人 (0.6%)	275人 (6.5%)	234人 (5.5%)	0人 (0.0%)
土日	昼間	971人 (22.9%)	342人 (8.1%)	313人 (7.4%)	0人 (0.0%)	316人 (7.4%)
	夜間	112人 (2.6%)	3人 (0.1%)	64人 (1.5%)	0人 (0.0%)	45人 (1.0%)
合 計		4,251人 (100.0%)	902人 (21.2%)	1,814人 (42.7%)	958人 (22.6%)	577人 (13.5%)

⑤ 曜日別の利用状況

木曜日の利用が1,588人(37.3%)と最も多くなっている*。反面、平日は、月曜日の利用が低調になっている。

(単位:人)



*大規模イベントが木曜日であった影響で利用数が多くなっている。

(4) 登録団体の利用状況

男女共同参画の推進を目的とし、エソール広島を利用して活動する団体として、今年度、新たに8団体が追加され、令和2年9月末現在で48団体が登録されている。

① 登録団体の状況

区 分	団体数
公益社団・財団法人	3 団体
一般社団・財団法人	8 団体
NPO法人	6 団体
その他任意団体等	31 団体
計	48 団体

② 所在市町別の状況

区 分	団体数
広島市	42 団体
広島市以外*	6 団体
計	48 団体

*竹原市，府中市，東広島市，廿日市市，府中町，坂町（各1団体）

③ 登録団体の利用状況

区 分	件数
職場等における女性活躍の支援 ・キャリアアップ支援 等	21 件
家庭における男女共同参画の促進 ・子育て支援 等	11 件
地域社会活動における男女共同参画の促進 ・地域における女性活動の支援 等	11 件
その他 ・ひとり親支援，健康支援 等	28 件
計	71 件

(5) 上半期の振り返り

新型コロナウイルス感染拡大防止のための県の対処方針に沿い、4月から5月までは、団体や個人が研修や交流などの活動を自粛している状況であったこともあり、利用促進を図るための活動がほとんどできていなかった。

しかしながら、県内に出されていた緊急事態措置が5月15日に解除されたことから、6月からは財団の主催事業をはじめ、団体や個人による活動も徐々にではあるが回復傾向にあり、研修室等の利用にあたっては、出入口での手指の消毒、広島コロナお知らせQRの提示、ソーシャルディスタンスの確保、人数制限（定員の半分以下）などの対策をしっかりと行った運用管理に努めている。また、新型コロナウイルス感染を避けるため来館を控えた方々へも受講機会を提供するためにWeb配信を開始し運用してきたことは、今後につながるものになったと考えている。

(6) 下半期に向けての取組

利用が低調な夜間の利用拡大に向けて、これまでの講座等のWeb配信の実績なども踏まえながら、利用登録団体や、男女共同参画推進のための活動をしているNPOや企業等に対して、エソール広島との連携事業の実施などを働きかけていく。

また、市町と連携して、エソール広島で実施する研修等をWeb配信により、各市町の施設においても受講できる機会を作るなど、さらなる利用拡大を図りながら、県内全域の施設としての拠点性を高めていく。

2 男女共同参画に関する事業の実施状況

今年度は、コロナ禍により集合型研修等が制限される中、主に研修・交流事業において、次のような新たな取組を始めたところである。

6月からは、集合型の研修やセミナーなどと並行して、ZoomによるWeb配信を開始した。

また、コロナ禍が女性のこころや生活にどのような影響を及ぼしているのかを把握するため、5月に女性を対象としたアンケートを実施した。その結果や相談事業の内容から浮かび上がってきた課題を参考として、「生き方・働き方」、「子育て・家事」、「家族・高齢社会」、「LGBT」の4つのテーマを設定し、各分野の専門家によるインタビュー動画を、6月からリレートーク形式でYouTubeにより配信した。

加えて、休校や外出自粛などにより、若年層にとっても、これまでにない閉塞感が蔓延した状況の中、将来、キャリアを拓くためのヒントや人生の選択肢を考えてもらうため、広島のような分野で活躍している専門家をゲストに迎えてのセミナーを企画し、7月に第1回目を開催した。

さらに、相談事業においては、DV関係の相談が例年の約1.5倍の傾向で増えてきたことから、DVやハラスメントといった課題に焦点をあてた公開講座を8月に実施した。

(1) 研修・交流事業の企画実施

① 職場等における女性活躍の推進

- ・働く女性や子育て中の女性などが、多様な生き方や働き方について考えるためのきっかけづくりを目的とした講座と交流会
- ・コロナ禍による女性の生き方や働き方などの課題の解決につながる、専門家による考え方や情報のWeb配信
- ・SDGsのジェンダー平等をテーマに、DVやハラスメントに焦点をあてた講座
- ・働く上で必要なコミュニケーション力等のスキル習得のための研修

区分	事業数(回数)	参加者数(人)	(うちWeb参加者)
財団主催事業	7	214	(53)
└(うち企業等からの受託)	(2)	(67)	-
共催事業	-	-	-
計	7	214	(53)

※ 個別の事業の詳細については別紙1の研修・交流事業のとおり
(以下、②～④において同じ)

② 家庭における男女共同参画の促進

- ・親子で家事をシェアしやすくする工夫などを学ぶことにより、家事参画への促進を図ることを目的とした講座
- ・子育て中の女性の心と体を支援するための講座とワークショップ
- ・再就職希望の子育て中の女性などを支援するための講座

区 分	事業数 (回数)	参加者数 (人)	(うち Web 参加者)
財団主催事業	1	41	(5)
└ (うち企業等からの受託)	-	-	-
共催事業	13	233	(4)
計	14	274	(9)

③ 地域社会活動への参加促進

- ・地域における防災活動において、男女共同参画の視点を持って活動できる人材の育成を目的とした研修

区 分	事業数 (回数)	参加者数 (人)	(うち Web 参加者)
財団主催事業	1	42	(14)
└ (うち企業等からの受託)	-	-	-
共催事業	-	-	-
計	1	42	(14)

④ その他の男女共同参画の推進

- ・生活上の困りごとなどを抱えている方々に対応する相談員を育成するための研修
- ・若年層が将来のキャリア形成を考える上で学びやヒントを得て人生の選択肢を考えてもらうための、広島の様々な分野で活躍している専門家によるセミナー

区 分	事業数 (回数)	参加者数 (人)	(うち Web 参加者)
財団主催事業	9	374	(12)
└ (うち企業等からの受託)	4	190	-
共催事業	-	-	-
計	9	374	(12)

⑤ コロナ禍による課題等に対応した新たな事業

コロナ禍が女性のこころや生活にどのような影響を及ぼしているのかを把握するため、5月に女性を対象として実施したアンケート結果及び相談事業の内容の中の課題を参考として、「生き方・働き方」、「子育て・家事」、「家族・高齢社会」、「LGBT」の4つのテーマを設定し、各分野の専門家によるインタビュー動画を、6月からYouTubeで配信した。これまでに10回配信し、再生回数は合計で約1,300回であるが、ライブラリ化しており、いつでも視聴できる状態にしている。

また、相談事業において、今年度は、DVに関連した相談が、例年の約1.5倍の傾向で増えてきたことから、DVやハラスメントといった課題に焦点をあてた公開講座を8月に実施した。

⑥ 上半期の振り返り

今年度から開始した、集合型研修と並行した Zoom による Web 配信については、18 回の主催事業のうち 8 回実施したが、さらに広げることにより、受講機会の拡大を図っていく必要がある。

また、今年度、新型コロナウイルス感染症が広がっていく時期に、DV に関連した相談が増加傾向にあったため、DV やハラスメントといった課題に焦点をあてた公開講座を 8 月に実施したが、さらに相談の中から新たな課題となるテーマを、研修等の事業の中に取り込んでいく必要がある。

⑦ 下半期に向けての取組

地域社会活動への参加促進を目的とした事業など、Zoom による Web 配信を取り入れて実施するとともに、その他の事業においても、Web 配信を拡大させていく。

また、今年度、LGBT 相談が増加傾向にあることを踏まえ、相談内容の最近の傾向を捉えて、LGBT への理解促進を目的に、講座に反映させ実施する。

さらに、LGBT 関連書籍を題材とする読書会（書評合戦）を定期的に開催し、LGBT に関する理解を深め、意見交換の場となるよう取り組んでいく。

(2) 相談事業

① 一般相談

家族や職場における人間関係などに関する悩みに対して、電話相談は週 5 日（水曜日、日曜日、休日以外の日）実施し、その中でも複雑な悩みを抱えた案件などについては、面接相談（原則として毎週金曜日）に移行している。

電話相談と面接相談を合わせると、今年度上半期で約 1 千件の相談が寄せられ、昨年度の年間件数 1,989 件と比較すると、ほぼ同水準の傾向で推移している。今年度は特に DV に関連した相談が増加傾向で、9 月末で 195 件となっており、昨年度比で約 5 割増の状況である。

また、新型コロナウイルス関連として、新型コロナウイルスに対する不安やストレス、夫婦や親子関係の不和や DV といった内容の相談が、82 件あった。

ア 相談件数

電話相談	面接相談	計
940	65	1,005

イ 相談内容

相談内容	件数
家族（夫婦，子ども，親等）に関すること （離婚，夫婦間のDV，子どもや親との関係悪化など）	442 (44.0%)
男女間や職場の人間関係など対人に関すること （男女・隣人・友人・職場等対人関係におけるトラブルなど）	167 (16.6%)
健康，孤独などの人生における不安や悩みに関すること （コロナ感染への不安，病気の辛さや不安，今後の生き方など）	298 (29.7%)
その他 （法律，福祉，職場に関する悩みや不安に関すること）	98 (9.7%)
計	1,005 (100.0%)

ウ 相談者の年代別件数

20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	不明	計
39 (3.9%)	110 (10.9%)	271 (27.0%)	202 (20.1%)	256 (25.5%)	102 (10.1%)	25 (2.5%)	1,005 (100.0%)

エ 相談者の地域別件数（電話）

地域	件数	内訳
広島市	627 (66.7%)	
広島市以外	295 (31.4%)	呉市 5，三原市 18，尾道市 1，福山市 21，東広島市 15，廿日市市 10，安芸高田市 2，府中町 5，海田町 2，熊野町 2，安芸郡 1，不明 213
県外・不明	18 (1.9%)	
計	940 (100.0%)	

オ 相談者の地域別件数（面接）

地域	件数	内訳
広島市	49 (75.4%)	
広島市以外	16 (24.6%)	呉市 2，三原市 1，福山市 1，東広島市 2，廿日市市 4，安芸高田市 1，府中町 1，熊野町 3，北広島町 1
計	65 (100.0%)	

カ 専門機関との連携

喫緊に対応する必要がある深刻な内容の相談については、事案に応じて、警察や病院などの専門機関につないでいる。

専門機関	件数	主な事例
警察	4	ストーカーやDV被害,
病院	9	ストレス等による心身の不調
行政機関(こども家庭センター等)	25	DV, 性被害
弁護士, 家庭裁判所等	27	離婚, 相続
民間施設	13	法律に基づく事務手続き
計	78	

キ DVに関する相談の内訳(一般相談全体の内数)

○ 件数 195件(昨年度の年間件数は250件で、年換算すると56%の増)

○ 年代別件数

	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	不明	計
女	19	44	35	31	48	5	4	186
男	-	1	6	-	2	-	-	9
計	19 (9.7%)	45 (23.1%)	41 (21.0%)	31 (15.9%)	50 (25.6%)	5 (2.6%)	4 (2.1%)	195 (100.0%)

○ 地域別件数

区分	件数	内訳
広島市	145 (74.3%)	
広島市以外	44 (22.6%)	呉市2, 三原市4, 福山市2, 東広島市2, 廿日市市8, 安芸高田市2, 府中町2, 北広島町1, 熊野町1, 不明20
県外・不明	6 (3.1%)	
計	195 (100.0%)	

② LGBT相談

相談件数は9月末時点で113件であり、昨年度の年間件数172件と比較すると、年換算で約3割増となっている。

また、30歳代までの若い世代からの相談が、全体の66%を占めており、一般相談の場合の約15%と比較すると、多い傾向にある。

ア 相談件数

	LGBT相談
相談件数	113

イ 相談者の年代別件数

10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	不明	計
9 (8.0%)	30 (26.5%)	35 (31.0%)	4 (3.5%)	2 (1.8%)	25 (22.1%)	6 (5.3%)	2 (1.8%)	113 (100.0%)

ウ 相談者の地域別件数

地域	件数	内訳
広島市	36 (31.9%)	
広島市以外	25 (22.1%)	尾道市 16, 東広島市 1, 廿日市市 1, 江田島市 1, 不明 6
県外・不明	52 (46.0%)	
計	113 (100.0%)	

エ 専門機関との連携

専門機関	件数	主な事例
病院	3	性転換に関する悩み
民間支援団体	8	自分の性が分からない
計	11	

③ 上半期の振り返り

今年度、相談の内容の中で、DVに関連した相談が増加傾向にあったため、「新型コロナウイルスが女性に及ぼす影響について」の緊急アンケートを5月11日から5月31日までの期間、Web調査で実施し、その結果を公表するとともに、アンケートの中から、信頼できる相談先についての悩みが判明したため、「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う相談先・情報一覧」を整理・とりまとめ、6月2日にホームページに掲載した。このような県民のニーズを取り込んだ情報発信とともに、相談窓口についての認知度を高めるだけでなく、専門機関との連携もさらに重要となってきた。

④ 下半期に向けての取組

生活上の困りごとや悩みごとをはじめ、コロナ禍の影響による様々な困難や、増加傾向にあるDVに関連する相談など、どこに相談すればよいか分からないといった方々の最初の公的な相談窓口として広く認知されるよう、ホームページやSNS等の活用とともに、市町や関係団体と連携した研修会などの場を活用して、周知拡大を図っていく。

また、今年度上半期のLGBT相談の件数が昨年度比で約3割増となっており、その内容を専門家の意見を聞きながら分析して、LGBTへの理解促進を目的とした講座に反映させる。さらに、相談事業で得られた知見などを関係機関に情報提供するなど、新たな取組につながるような有効活用について検討を進めていく。

(3) 情報の収集及び提供

① ホームページ等の活用や文献情報などによる情報発信・提供

コロナ禍により様々な状況下で困難を抱えた方々の一助となるよう、DV相談、生活困窮に係る相談、子育てや教育に係る相談など、国をはじめとした行政機関が設置した相談窓口や生活上の困りごとに対応する各種情報などについて、県民が一元的に情報収集できるサイトをホームページに掲載した。

また、今年度から、市町で実施する男女共同参画に関する研修の情報を集約し、県民が一元的に情報収集できるサイトをホームページやメールマガジンで配信した。

さらに、行政資料や新規書籍を定期的に収集・追加し、その情報をSNS等を活用して発信している。

(※詳細については別紙の2の情報事業のとおり)

② 上半期の振り返り

内閣府の定める「男女共同参画週間(6/23～6/29)」に係る周知や、「男女共同参画に関するパネル等による企画展示(6/20～7/20)」を情報スペースで実施したほか、6月から新たに開始した研修事業等のZoomによるWeb配信や、各分野の専門家によるインタビュー動画10本のYouTubeによる配信などに取り組んでいる。

こういった取組については、ホームページやSNS等を活用して周知しているところであるが、認知度を高めるために、さらに周知方法を工夫し、拡大を図っていく必要がある。

③ 下半期に向けての取組

国や県などが発信する、新型コロナウイルス感染症に関連する情報をはじめ、男女共同参画に関する様々な情報について、県民がより入手しやすくなるよう、引き続き、ホームページやSNS等を活用して速やかに情報発信していく。

また、周知拡大の手段の一つとして、市町の施設においても、研修事業等のWeb配信が受講できる機会を増やすことで、より多くの県民がエソール広島の事業を認知し、利活用につながるよう取り組んでいく。

1 研修・交流事業

(1) 職場等における女性活躍推進のための主な事業

①財団主催事業

エソール きらめき トークラ イブ	目的	社会の様々な分野で活躍している女性をゲストスピーカーに迎えて、自身のマイストーリーを語ってもらい、参加者が自身の働き方・生き方について考えるきっかけとなり、前に進んでいくことにつながることを目的とする。
	対象	女性
	参加者数	104人（うちZoomによる参加者40人） 〔内訳〕広島市96人、福山市2人、東広島市1人、廿日市市2人、府中町3人
	内容	・女性起業家や社会的活動を実施している女性をゲストスピーカーに迎えてのセミナーと参加者同士の交流イベント ・4回（6月以降、毎月実施）
	受講生の評価	アンケート調査結果 満足度：100% 受講者の声：「周りを大切にするために、まずは自分を幸せにすることを大切にしていきたい。」「他人の評価ではなく自分軸で生きていく事が大切だと思った。」

エソール つながる トークリ レー	目的	コロナ禍等により、様々な社会的課題で悩んでいる女性に対して、これから生きていく上での考え方や参考になる情報などを提供することにより、悩みの解消などにつながることを目的とする。
	対象	女性
	内容	・5月に女性を対象としたアンケート結果や、相談事業から浮かび上がった内容を基に、「生き方・働き方」「子育て・家事」「家族・高齢社会」「LGBT」の4つのテーマを設定し、各分野の専門家による考え方や情報をYouTubeにより配信 ・6月以降、10回配信（1回あたり約20分） ・再生回数は合計で1,294回

男女共同 参画公開 講座	目的	男女共同参画の推進のため、SDGsのジェンダー平等について認識し考えてもらうことを目的とする。
	対象	全般
	参加者数	43人（うちZoomによる参加者13人） 〔内訳〕広島市40人、呉市1人、府中町1人、県外1人
	内容	・SDGsのジェンダー平等をテーマに、ハラスメント、性暴力、貧困などの社会的課題の要素を取り入れた専門家による公開講座 ・1回（8月実施）
	受講生の評価	アンケート調査結果 満足度：91.6% 受講者の声：「普段、自分が感じていたことも課題の一つだったのだと再認識した。」「具体的事例も含めて大変理解しやすく、改めてジェンダーについて考えることができた。」

②企業等からの受託研修事業

内容	委託者（数）	回数	参加者
働く上での接遇・クレーム対応， コミュニケーションスキルの向上	大学（1），高校（1）	2回	67人

（2）家庭における男女共同参画促進のための主な事業

①財団主催事業

お手伝い 共育キッズ セミナー	目的	家庭でのお手伝いをテーマに，家事の共有だけでなく，親子間のコミュニケーションの向上を図る。
	対象	親子
	参加者数	41人（うちZoomによる参加者5人） 〔内訳〕広島市38人，東広島市1人，府中町2人
	内容	・家庭でのお手伝いをテーマにした親子で学べる体験型のセミナー ・昨年度の延期分1回（8月実施）
受講生の評価	アンケート調査結果 満足度：77.7% 受講者の声：「子どもへの声のかけ方や年齢に応じたやり方を教えて頂き助かった。」，「子どものやる気を引き出せた。自分がやった方が早いと思い敬遠していたが，今後はやらせようと思った。」	

②共催事業

内容	主催者（数）	回数	参加者
子育て中の女性への支援	行政（7），企業等（6）	13回	233人

（3）地域社会活動への参画促進のための主な事業

①財団主催事業

防災講座	目的	過去の災害で明らかになった様々な課題に対応するため，地域防災活動において，男女共同参画の視点を持って企画・方針決定の過程や運営に参画できる人材を育成する。
	対象	全般
	参加者数	42人（うちZoomによる参加者14人） 〔内訳〕広島市30人，三原市2人，福山市4人，廿日市市2人，江田島市2人，北広島町2人
	内容	・災害時の避難所運営などにおいて男女共同参画の視点から明らかになった課題に対応するためのノウハウを身に付ける講座 ・昨年度の延期分1回（8月実施）
受講生の評価	アンケート調査結果 満足度：90.0% 受講者の声：「知識が深まったことで防災意識が高まった。」，「避難所における問題点などよく理解できた。」	

(4) その他の男女共同参画の推進に係る事業

①財団主催事業

メンタルサポーター養成講座(基礎編)	目的	対人援助活動に携わっている方が、基本姿勢となる「信頼を築く」ために必要な基礎的な知識や技法などの習得を目的とする。
	対象	学校、地域、職場などで相談を受ける立場の方等
	参加者数	68人 〔内訳〕広島市47人、呉市3人、尾道市6人、廿日市市3人、府中町3人、北広島町3人、県外3人
	内容	・共感をともなうコミュニケーション能力の向上を目指して、「聞く技術」に焦点を当てた、初心者でも学ぶことができる講座 ・3回連続講座(9月実施)
	評価	アンケート調査結果 満足度：満足度 100% 受講者の声：「聞くという技法について、ロールプレイを数回重ねて自分の在り方を見つめ直すことができた。」「聞くことの重要性を実感でき、これからは活かせる内容だった。」
メンタルサポーター養成講座	目的	複雑多様化する相談に対応するために、男女共同参画の視点を持った相談員を養成することを目的とする。
	対象	学校、地域、職場などで相談を受ける立場の方等
	参加者数	42人 〔内訳〕広島市34人、福山市2人、庄原市2人、廿日市市2人、府中町2人
	内容	・家族の変容、子どもの諸課題、DVと児童虐待等をテーマにした講座と演習 ・昨年度実施の7回連続講座のうち延期分1回(7月実施)
	評価	アンケート調査結果 満足度：満足度 87.5% 受講者の声：「対人支援のために理解しておくべき背景や環境を学ぶことができた。」「聞くことはいろいろな相談の基本になることなのでとても自分のためになった。認知症のロールプレイで相手の気持ちがとても理解できた。」「職場でも家庭内でも心理的支援が必要だと感じ、今回の講座が大変役に立った。」
広島プロフェッショナル談義	目的	若年層が将来のキャリア形成を考える上での学びやヒントを得るとともに、男女共同参画の視点の必要性の認識を目的とする。
	対象	小・中・高校生
	参加者数	74人(うちZoom参加12人) 〔内訳〕広島市74人
	内容	広島の様々な分野で活躍する専門家を招き、これまでの人生の歴史から、自分らしいキャリアを拓くためのヒントや人生の選択肢をインタビュー形式で聞き出すセミナー
	受講生の評価	アンケート調査結果 満足度：満足度 100% 受講者の声：「今後も子どもがプロフェッショナルな方にお会いできる会に参加したい。」

②企業等からの受託研修事業

内容	委託者（数）	回数	参加者
LGBTの理解促進	企業(1), 高校(2)	3回	170人
デートDV予防啓発	高校(1)	1回	20人
計	企業(1), 高校(3)	4回	190人

2 情報事業

(1) ホームページ等

ホームページ	<p>アクセス件数： 43,747 件 アクセスの多いページ (HOME を除く)</p> <p>①施設案内・予約 (3,891 件) ②相談したい方 (3,852 件) ③エソール広島の概要 (2,584 件) ④男性対象講座「思春期の子どもと何を話そう」(1,472 件) ⑤講座情報 (1,360 件) ⑥エソールきらめきトークライブ令和2年度 (908 件) ⑦講座イベント情報 (888 件) ⑧WEB 調査「新型コロナウイルス禍が女性に及ぼす影響について」(874 件) ⑨施設予約状況 (812 件)</p>
フェイスブック	<p>投稿回数： 83 回 (情報数 100 件) フォロワー数： 585 人 主な配信内容：①研修・イベント情報 (財団主催) (47 件) ②施設情報 (17 件) ③国・県情報 (15 件) ④コロナ対策 (15 件) ⑤図書紹介 (6 件)</p>
メールマガジン	<p>配信回数： 21 回 (情報数 55 件) 登録者数： 1,029 人 主な配信内容：①研修・イベント情報 (財団主催) (23 件) ②イベント情報 (共催事業) (14 件) ③コロナ対策 (9 件) ④国・県情報 (5 件) ⑤図書の紹介 (2 件) ⑥施設情報 (2 件)</p>

(2) 文献情報等

区 分		保有数	貸出数
一般図書	女性問題に関する図書, 女性の活動を支援する図書	2,948 冊	336 冊
行政資料	国・都道府県作成の男女共同参画に関する調査・統計・報告書等	400 冊	(館内閲覧)
DVD	女性の生き方を考える国内外の映画・ドキュメンタリー等	29 本	2 本